科目ナンバリング	U-LAS23 10003 SJ48

授業科目名 <英訳>	**中国語ＩＢ（文法）** C1101,C1102,C1103,C1104,C1105,C1106,C1107,C1108,C1109,C1110,C1111,C1112,C1113,C1114,C1115,C1116,C1117,C1118,C1119,C1120,C1121,C1122,C1123,C1124,C1125 Elementary Chinese B	**担当者所属 職名・氏名**	文学研究科　准教授　成田　健太郎 人間・環境学研究科　教授　松江　崇 国際高等教育院　准教授　劉　愛群 非常勤講師　大賀　晶子 非常勤講師　林　淑美 非常勤講師　山本　浩史 非常勤講師　山田　晃三 非常勤講師　上原　尉暢 非常勤講師　前田　尚香 非常勤講師　小出　敦 非常勤講師　中原　理恵 文学研究科　教授　緑川　英樹 非常勤講師　南　真理 非常勤講師　鈴木　博之

群	外国語科目群	**分野(分類)**		**使用言語**	日本語

旧群	C群	**単位数**	2単位	**週コマ数**	1コマ	**授業形態**	演習（外国語）（対面授業科目）

開講年度・開講期	2026・後期	**曜時限**	月2/月3/月4/火3/水3/水4/木1/木2/木3/金2/金3/金4/金5	**配当学年**	全回生	**対象学生**	全学向

[授業の概要・目的]

本授業は、原則として中国語IA（文法）の履修経験を有する学生を対象にしたものであり、ある程度の長さを持ったスキットと文法事項を段階的に学びながら、読む、書く、聞く、話すといった能力を身につけてゆく。この授業ではIA（文法）で修得した能力を基礎に、中国語の運用能力を伸ばしてゆくことを目的とし、演習の授業と連携したかたちで、授業をすすめる。

[到達目標]

中国語の発音体系を正確に身につけた上で、中国語・日本語間の正確な翻訳や中国語の表現能力を身につける。上海などを舞台としたスキットを題材としつつ、広く中国の文化に対する理解を深める。

[授業計画と内容]

この講義はフィードバック（方法は別途連絡）を含む全15回で行う。

後期は本文編第十課より第二十二課までを学ぶ。本授業で使用する教科書は、一年間だけ学ぶ場合でも相当高いレベルまで身につけられるように編纂されており、後期の授業では、ある程度まとまった内容をもった文章を読解し、またより高度な中国語表現ができるようになることをめざす。原則として１回の授業で１課を学習する。

本授業は、所定の演習の授業と連携して行われるため、かならずセットで履修しなければならない。この授業だけの履修は原則として認められない。なお、Web上にも教材や練習問題の音声を置き、履修生には24時間自由なアクセスを認め、その自学自習を支援する。各回において学ぶ内容（文法事項）は次のようである。

第1回　第十課、「アスペクト助詞“着”」「可能補語」「貨幣と単位と価格の表し方」「助動詞“能”“可以”」「二重目的語」
第2回　第十一課（前半）、「動作の回数・持続時間の表現」「“是…的”構文」
第3回　第十一課（後半）、「“he/gen…yiyang”」「“一…就…”」
第4回　第十二課、「単純方向補語」「“聴説”」「様態補語」

中国語ＩＢ（文法）C1101,C1102,C1103,C1104,C1105,C1106,C1107,C1108,C1109,C1110,C1111,C1112,C1113,C1114,C1115,C1116,C1117,C1118,C1119,C1120,C1121,C1122,C1123,C1124,C1125(2)へ続く↓↓↓

第5回　第十三課、「仮定表現“ 如果／要是…（的話），就… ”」「動詞の重ね型」「副詞“ 再 ”」「助動詞“ 応該 ”“ 得 ”」
第6回　第十四課、「連体修飾II」「連用修飾“ 地 ”」「受け身の表現“ 被 ”」「“ 因為…，所以 ”」「時間副詞“ 快 ”など」
第7回　第十五課、「“ 像 ”“ 好像 ”」「“ 除了…（以外／之外） ”」「強調表現（一）」「複合方向補語」
第8回　第十六課、「助動詞“ 会 ”」「使役表現“ rang ”“ 叫 ”“ 使 ”」「“ 又…又… ”」「不但…而且…」
「“ 怪不得 ”“ 難怪 ”」
第9回　第十七課、「“ 常常 ”など」「助動詞“ 要 ”“ 不用 ”」「存現文」
第10回　第十八課、「越…越…」「動詞＋“ 在 ”」「“ 尽管 ”」
第11回　第十九課、「副詞“ 才 ”」「“ 既然…就… ”」「“ 非…不可 ”」
第12回　第二十課、「“ 雖然…但是… ”」「強調表現（二）」「“ 一辺…一辺… ”」
第13回　第二十一課、「“ 不管…都／也… ”」「“ 只要…就… ”」「“ 先…再… ”」
第14回　第二十二課、「“ 有 ”を用いた兼語文」「“ 一会児…一会児… ”」「“ 有時…有時… ”」
《期末テスト》
第15回　フィードバック

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

　原則として定期試験70%、平常点30%で評価する。詳細については授業の最初の時間に説明する。
基本的な語彙・文法事項の理解と、それらを用いた表現能力の修得が評価の対象となる。

[教科書]

赤松紀彦　他 『中国語の世界―上海・2026―』（大地社）

[参考書等]

　（参考書）
授業中に紹介する
　詳細な学習方法や、辞書及び参考書については、最初の授業や授業の中で紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

　Web上に教材や練習問題の音声を置く。24時間自由にアクセスできるので、必ず授業の前に、音声を聞くとともに文法事項について目を通しておくこと。また、練習問題が宿題となることもある。必ず復習とともに練習問題等の課題を行うこと。

[その他（オフィスアワー等）]

　最初の授業において紹介する。

[主要授業科目（学部・学科名）]